

## 2010年末賞与の見通し ～ 小幅ながら2年ぶりのプラスに ～

- (1) **今冬の賞与を展望すると、民間企業の一人当たり支給額は前年比+0.8%**と夏季賞与の同+1.1%に続き、小幅プラスを確保する見通し(\*) (図表1)。  
(\*) 厚生労働省「毎月勤労統計」事業所規模5人以上ベース。
- (2) **背景には企業収益の持ち直し**(図表2)。本年末賞与の動向を大きく左右する2010年度上期の企業業績は、製造業を中心に好調。もっとも、前年同期の大幅な落ち込みからの持ち直し幅としては小さく、全産業ベースでみると、リーマンショック前のピーク水準の7割程度にとどまる見込み。このため、**賞与も昨年の大幅減を埋め合わせるには至らず、水準としては1980年代前半並み**にとどまる見通し(図表3)。
- (3) 全体としてみれば、支給を再開する企業が増える結果、支給労働者数が前年比+1.4%となるため、**支給総額は14.2兆円と、前年比+2.2%増える見通し**(図表4)。
- (4) なお、国家公務員は、前年比▲8.1%と大幅な減少となる見込み。官民格差解消の一環として、支給月数が前年の2.20ヵ月分から2.00ヵ月分に引き下げられるほか、本年度4～7月分の俸給月額引き下げの調整が行われるため。

図表1 2010年末賞与の見通し

	民間企業			国家公務員	地方公務員
		製造業	非製造業		
2009年夏季(実績)	▲ 9.7	▲ 16.4	▲ 8.1	▲ 8.9	▲ 9.6
2009年末(実績)	▲ 9.3	▲ 14.8	▲ 8.0	▲ 6.6	▲ 7.3
2010年夏季(実績)	1.1	3.9	0.5	0.7	▲ 0.7
2010年末(予測)	0.8	1.3	0.7	▲ 8.1	▲ 8.1
支給額(万円)	38.3	45.8	35.0	59.4	55.8

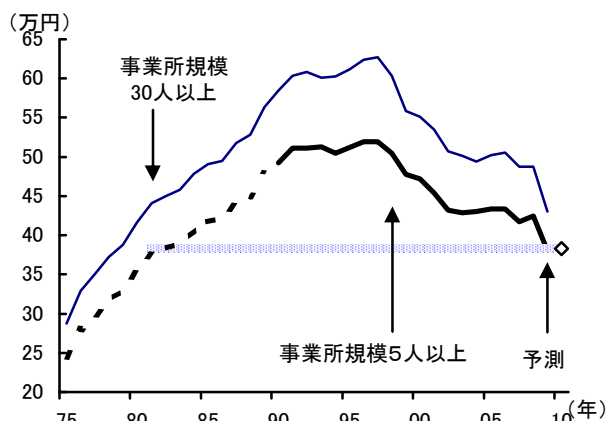
(資料) 厚生労働省、総務省、人事院  
(注) 予測は日本総合研究所、以下同じ。

図表2 経常利益の見通し(日銀短観9月調査)

	前年同期比、%	
	大企業	中小企業
製造業		
09年度上期	▲ 82.4	▲ 71.1
09年度下期	利益	4.8倍
10年度上期	3.5倍	2.8倍
10年度下期	2.7	12.2
非製造業		
09年度上期	▲ 23.3	▲ 18.7
09年度下期	18.1	20.1
10年度上期	7.5	11.9
10年度下期	19.6	▲ 2.5

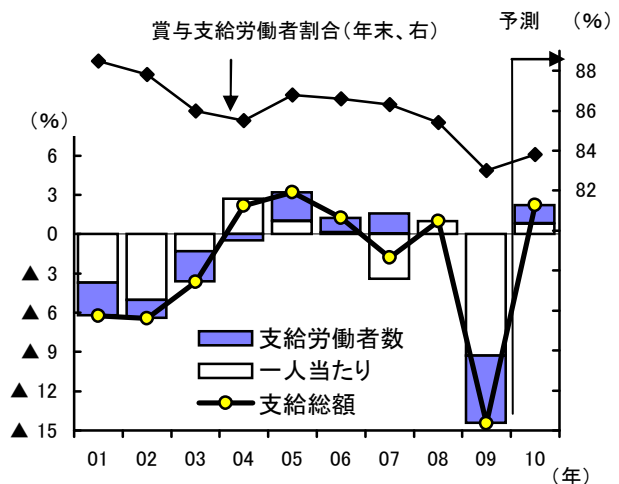
(資料) 日本銀行

図表3 年末賞与の平均金額の推移



(資料) 厚生労働省  
(注) 事業所規模5人以上の89年以前は、事業所規模30人以上実績からの推定値。

図表4 賞与支給総額の推移



(資料) 厚生労働省